

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091500498		
法人名	株式会社 あすか介護サービス		
事業所名	グループホーム 三丁目のわが家		
所在地	福岡県大牟田市諏訪町3丁目59番地 (電話) 0944-41-4737		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 5 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

“一人ひとりの思いを大切に… よりやさしく より遅しく”を法人の信条として、掲げています。
ご利用者お一人おひとりの思いを大切にしていくと共に、スタッフ一人ひとりの思い（夢や希望、今こうしたいと思っていること、今感じていること）を大切に、ご利用者に対しても仲間に対しても「よりやさしく」を追求すると共に、自分自身の心の遅しさを育み、スタッフ一人ひとりが、自分自身の幸せを追求し、人として成長していくことで、ご利用者の幸せへの支援ができることを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街の一角の2階立ての建物である。玄関にはベンチが置かれ、季節の花を植えている。リビングの天井は高く、開放的に感じる空間となっている。玄関は、段差がなく、移動しやすい。隣接している事業所には、地域交流拠点があり、利用者のピアノ演奏に合わせて合唱を行い、利用者同士の交流もある。町づくり協議会に参加し、地域住民と関わり、地域に溶け込んでいる。認知症ライフサポート研修会の活動に参加し、行政との協力体制が築けている。利用者中心のケアを実施しており、アットホームな雰囲気の事業所である。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者始め職員一人ひとりが地域密着型サービスであるというその意義を心に刻み、事業所が目指すべき信条と理念を共有できるように、常に心がけている。	地域密着型サービスの意義を含めた事業所の理念がある。事業所独自の行動指針と理念は、各ユニットのリビングに掲示している。ミーティング時、理念について話をすることができるように、共有して日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の地域交流拠点ほほ笑みガーデンは、地域のまちづくり協議会の構成員でもあり、ご利用者が地域の行事にも参加できるようにつながりをもつと共に、近隣への散歩などの際に挨拶などして地域の方との交流を継続している。	感染状況をみながら、地域との交流を行っており、地域の清掃活動にも参加している。コロナ禍前は地域のどんと焼き、小学校の運動会、敬老会、盆踊りに参加していた。事業所内の餅つきや夏祭りに、コロナ禍前は、地域住民の参加があっていたが、現在は感染対応のため、地域住民の参加はない。花のおすそ分けを頂いたり、近隣住民との交流がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、大牟田市によって開催される、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練の事務局として、まちづくり協議会の実行委員の皆さんと認知症の人の理解と安心・安全のまちづくりの啓発活動を行っており、本年度はミニフォーラムも開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、開催している運営推進会議において、利用者のサービスの状況及び運営の状況等について、報告を行い意見を求め、そのご意見等について真摯に受け止め修正すべきは修正し、また励ましのご意見により職員のモチベーションの向上、チームの士気高揚にも繋げるようにしている。	隔月で運営推進会議を開催している。会議の構成メンバーに、あんしん介護相談員が含まれている。利用者の状況やサービス内容、感染状況、研修、火災訓練について報告し、委員からの意見や質問をもらっている。委員の意見で、熱中症の予防や水害時の垂直避難について意見があり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大牟田市の福祉課の職員とつながりを持ち、必要に応じ運営に関する相談や連携を図ると共に、サービスの向上や地域の健康推進事業等にも取り組んでいる。	行政のほっとあんしんネットワーク模擬訓練に、協力している。コロナ禍前は、認知症ライフサポート研修会で、認知症コーディネーター養成研修や小中学校の絵本教室を実施していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人において設置されている身体拘束等適正化委員会において、3ヵ月に1回会議を行い、職員に身体拘束についての研修を開催し、学びを深めると共に、その意識向上に努めている。	日中玄関の施錠はしていない。職員は、利用者の外出傾向を把握し、見守りや声かけ、付き添いを行っている。全職員、身体拘束に関する研修を受けている。資料や報告書は、整備している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の芽チェックリスト」の記入を毎月実施しており、月に一回真剣に考える機会をつくと共に、アンガーマネジメント等虐待の防止のための研修を実施している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や権利擁護についての研修の機会を提供し、学ぶ機会を作るようにしている。必要に応じ、ご家族に制度について紹介している。	権利擁護に関する制度の説明を必要時、家族に行っている。パンフレットは、準備している。日常生活自立支援制度や権利擁護に関する内部研修は、開催されていない。	職員が権利擁護に関する制度について研修等で学ぶ機会を設けることを期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容や重要事項説明について丁寧に説明を行いご理解の上契約を行うことはもとより、契約後も、個々の条項に関連する事象が発生すると予測される際にも、ご理解。ご納得頂けるよう説明するように心がけている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見を反映させる仕組みとしては、あんしん介護相談員を受け入れ、実施していただいている。ご家族様とは、お会いできる機会に、ご意見ご要望をお聞きするように心がけている。	日頃から利用者の思いや要望を、表情や言動から推察するようにしている。利用者から散歩に行きたいと希望がある時は、一緒に散歩に行く等している。家族の面会時等に要望を確認しており、利用者が言葉が出にくいので声かけをして話し相手になってほしいと要望があり、日頃の関わり方に反映するようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のリーダーミーティング及び合同ミーティングの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設けると共に、発言しやすい雰囲気づくりに努力している。	代表者は、年1回の人事考課の面談や、それ以外も随時、職員に声かけをして、個別に意見を聴いている。代表や管理者は、声かけの仕方を工夫したり、話しやすい環境づくりをしている。物品購入や行事の内容等、職員の意見を取り入れるようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者やユニットリーダーは、リーダー研修等に参加し、スキルの向上ややりがいを高める機会を設けている。処遇改善加算を取り入れ、待遇の向上及び職場環境の改善に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたって、性別や年齢に関しては、幅広く採用している。「自分自身が幸せではないと良い介護は出来ない」という信念に基づき、職員一人ひとりの自己実現を目指し、共に成長できるように心がけている。	定年以降も希望があれば1年更新で勤務継続可能である。資格取得の働きかけを行い、費用負担や勤務の調整をしている。希望休をとれるようにしている。仕事が継続できるように体の負担を考え夜勤の回数を調整する等、働きやすい環境になるよう工夫をしている。勤務時間の調整や環境づくりをしている。職員の得意分野を活かせるように支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者は、大牟田市が主催する「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」を修了し、社内研修で伝えるようにしている。新入社員研修では、人権教育の一環として、映画「コスモスの咲く日」の視聴の機会をつくっている。毎月のミーティングの機会には、「自分がして欲しくないことはしない。」という考えを繰り返し伝えている。	講師を呼んで、障がい者の人権について、内部研修を実施し全職員が学べるようにしている。外部研修受講した職員が、認知症の人の人権について伝達研修を実施している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を開催している。また、管理者やリーダーは、自己啓発やリーダー向けの研修に参加し、学びを深めている。経験に応じ、外部研修も勧めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大牟田市介護サービス事業者協議会に事業所会員として入会しており、リーダーは認知症ライフサポート研究会に個人会員として入会し、認知症介護実践塾に参加し、サービスの向上に繋げるようにしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用当初の不安を少しでも軽減できるように、笑顔で、誠心誠意、丁寧に対応することが重要であると考えている。初期支援の際は、センター方式D-4焦点情報に記入し、少しでも早く馴染まれるように努力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	止むを得ずグループホームに入居させることを、決断される場合など、家族は、負い目を感じたり、複雑な思いを持っていらっしゃるが多いため、ご家族の思いもしっかりと受け止めるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際に、在宅サービスの利用が適切であるか、施設入所が本当に必要であるか、必要と思われた場合、どのような施設がその方にとって適切であるかなどについて担当のケアマネジャーや地域包括支援センター、その他関係者と慎重に検討し、助言するようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をし、家事をしたり、趣味や外出を共に楽しみながら、支える側と支えられる側という壁を低くし、人としての関係を深めるように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援が必要な場合や、ご家族が支援した方が良い場合もあることを意識して、ご家族と共に考え支援していくように心がけていると共に、ご家族や職員もご本人に支えられていることも忘れないように心がけるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望により、もともとのかかりつけの医療機関に通院されることを支援しており必要に応じ通院送迎の支援を行っている。通院送迎時等の道すがら、市内各所の思い出の土地の話をして、昔のことを思い出されるなど馴染みの地名を忘れられないように意識してお話するように心がけている。	職員は、利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族、知人から聞いて情報を得ている。受診の送迎時、馴染みの場所を通ったり馴染みの美容室に行く等、馴染みの場所や人との繋がりが継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行により、ご利用者同士のコミュニケーションは、かなり難しくなっているが、なるべく食卓やリビングでご利用者同士が居合わせる場面をつくり、必要時は職員が中に入り、互いの関係性を深め、維持できるような配慮を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後にご本人が安心して暮らすことができるようご家族との関係性を維持しながら、その後の暮らしが落ち着かれるまで、相談等の支援を続けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の表出が困難なご利用者に関しては、カンファレンスの場において、携わるスタッフ一人ひとりの感性によりあらゆる視点から意見を出し合い、パーソンセンタードケアの理念を大切に推察し、ケアマネジメントに活かすようにしている。	職員は、日々の関わりの中で、会話内容や表情から利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。積極的に会話しない利用者は入浴時に歌を歌って昔の話を聞きながら思いを引き出すなど工夫している。得られた事柄をミニカンファレンスで共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、これまでの人生や暮らしぶりなどを、ご家族にセンター方式のシートにご記入頂きこれまでの暮らしについて把握するように心がけている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方について観察し、毎日バイタルサインチェックを行い異常の早期発見に努めると共に、個々の能力の把握にこころがけ、支援計画に活かせるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	少なくとも月に一回以上、ミーティングの機会をつくり、本人及びご家族のご意見も反映できるように心がけている。	介護計画は、6ヶ月に一回、または状態変化時に見直しを行っている。担当医や看護師、法人内のリハビリ専門職員等の意見を取り入れて一人ひとりの状況にあ合った計画を作成している。また、隣接の地域交流センターでの音楽サークルに参加する等、家族の意見を反映している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉がある時には出来るだけ逐語録で記録するように心がけている。日常生活の身体に関わる変化及び認知症等による精神面や行動の変化などから情報分析を行い計画の見直しを行うようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急病による医療機関受診等の対応はもとより、その日の心身の状況や天候、職員の対応の状況等により、例えば、急にドライブに行ったり、お花を見に行くなど、即時的に実施するなどの支援を行うように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ地域の行事へ参加できるように支援している。併設の地域交流拠点ほほ笑みガーデンにて、毎週水曜日に開催されているほほ笑みハーモニーには、数名の方をお連れしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけの医療機関に通院を希望される方は継続されるように支援し、かかりつけ医を探しておられる場合などにおいては、協力医やその他その方のニーズに合ったところを紹介するようにしている。	利用開始前からのかかりつけ医への受診希望が多く、職員が通院援助を行っている。家族との情報共有はSNSを活用し、治療方針についてかかりつけ医と一緒に相談することもある。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは、情報を共有し連携を図り、協働している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は、適切に治療できられるように必要な情報提供を行うと共に、可能な限り早期に退院できるように医療機関と情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合や終末期には、様々な条件が整えば可能な限り看取りが行えるように対応することとしている。	事業所の対応方針については、文書を提示し家族に説明している。代表者・管理者が看護師であり、職員は急変時、管理者に連絡し、組織立った対応ができています。終末期にある利用者の事で、かかりつけ医と連携し夜間・休日などの対応を検討している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急病時の応急手当について社内研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消火避難訓練は年に2回実施している。火災以外の災害の対応に関しても、マニュアルを作成している。水害等の避難訓練も実施している。	マニュアルがあり、年2回夜間を想定した避難訓練を実施し消防署へ報告している。近隣住民の消防署職員と連携して避難訓練を実施したこともあった。水害を想定した垂直非難の訓練も行っている。非常用食糧飲料水は、事業所の2階に飲料水を、隣接の交流センターに食糧を3日分、リストと共に保管している。	非常用食糧の保管場所について、事業所内に閉じ込められた場合にでも使用できるように事業所内での保管場所を検討願いたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーの確保について十分配慮を行うように心がけるように努力している。人権の研修を行い、一步一步意識は高まっている。	職員は咄嗟に大声で制したりしない、さりげなく近づいて介護する、排泄・オムツ交換時は扉を閉める等、常にプライバシーを配慮した支援を心がけている。代表者は、利用者と職員が馴れ合うことによって失礼にならないようにミーティングで尊厳とプライバシーについて話をしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを関係性を深めながら、可能な限り尋ねるように心がけている。意思の表出が困難な方については、ご家族のご意見を尋ねたり、チームで検討するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員体制の関係で実施できないこともあるが、可能な限りお一人おひとりのペースに合わせて対応できるように努力している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などは、身だしなみの助言やお手伝いをして、服選びなども手伝うようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は、お一人おひとりのしたいことやできられることを探し、可能な限り調理の手伝いや、盛り付け、配膳等に参加していたが、認知症の進行と感染症の発生以来、あまり実施できていない。	食事の準備・片づけは、利用者の能力に応じて一緒に行っている。職員は、利用者の食事介助や見守りを安全に行うことに努めている。季節の行事の日には、特別な食事を提供し、普段の食事では、音楽を流し、職員が介助しながら、常に話しかけて、明るい雰囲気になるように意識している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの習慣、栄養状態、体重の増減、排泄状況、気候による気温や活動状況等を意識し、食事や水分の摂取量の調整を図っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操や食後の口腔ケアを、実施していただいております。支援が必要な方は、声掛けや、介助し実施している。訪問歯科も利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を継続できるように支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、それぞれのタイミングで、トイレ誘導している。日中は、トイレでの排泄ができるように、支援している。おむつやパット類を使用する際にも一人ひとりの特性に合わせて対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に水分を十分に摂っていたり、排泄状況の記録を行い、便秘が続くときは緩下剤や座薬等でコントロールしている。食物繊維（サンファイバー）や乳酸菌等により、腸内環境の改善も取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴に関して、ご本人の希望の回数や時間帯について、ご希望通りの対応はできていない。入浴時は、可能な限り満足いただけるように心がけている。	週に2回以上入浴できるように支援している。入浴支援中に、楽しく会話したり、季節によって、菖蒲湯や桜湯にして、楽しい雰囲気づくりに努めている。体調がすぐれない利用者には足浴で対応している。入浴日以外で、入浴希望がある場合は、利用者の状況に応じて対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ベッドで休憩される方は、そのようにしていただき、夜間不穏な場合は、話を聞いたり、不穏が落ち着かれるのを待って休んでいただくようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の目的や副作用については十分把握できていないが、日頃より学習できるように心がけている。病状変化時の臨時薬（解熱剤、抗生剤等）の与薬に関しては、特に用法・用量に十分注意し服薬支援を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの役割や楽しみごとを探し、家事の役割やレクリエーション、創作活動を実施している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院の支援や近隣への散歩等、可能な限り支援している。ご家族様の協力により、自宅での食事や外食など楽しまれている。クリスマス時期には、夜間、イルミネーションがきれいなところにお連れして大変喜ばれた。	散歩に行きたい利用者には、職員が付き添い、近隣へ出かけている。受診の際、車窓からの景色を楽しんでもらうように、声掛けしている。おおむた大蛇山祭り、近所の桜見物、夜のイルミネーション見物等、積極的に外出支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持に関しては、管理できるご利用者には、ご自身で管理して頂き、買物など頼まれた際には、対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときはかけていただくように対応している。年賀状を、本人宛に出している。 本人宛の手紙は、お渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住環境として施設ではなく、普通の家を意識したしつらえになるように心がけている。七夕やクリスマス、お正月など、季節を感じさせる飾り付けも心がけている。	建築段階から「普通の家」を意識した設計にこだわり、家庭的な雰囲気と職員とのコミュニケーションが取りやすいように、対面式キッチンを取り入れたり、エレベーターのデザイン等、全館で木のぬくもりを感じられるよう工夫されている。利用者と職員が作成した季節感のある作品を壁に飾っている。ソファやテーブルの位置は、居心地よく過ごせるように配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6名のご利用者であり、ソファでくつろがれる時間と食卓で歓談される時間があり、居室で過ごされることもある。心身の状況やご利用者同士の関係性も考慮し、その都度イスやソファの位置も変更している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、自宅で愛用されていた家具や調度品を持ち込んでいただき、家族の写真を飾るなど、ご自分の部屋であることを印象付けるように心がけている。ゆっくり自室で過ごされるようにソファなど持ち込まれるように提案している。	家族写真を飾っていたり、持ち込みの洋服をたくさん掛けていたり、シンプルなレイアウトだったり、居室はそれぞれ个性的で、共有空間でも自分の居室でも自由に選択して過ごせるように環境整備されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかられない方がいらっしやるので、ドアに「トイレ」の表示をするなどしている。居室の戸に名前を表示し、ご自分の部屋がわかるようにしている。必要と思われるところに手すりを設置し、転倒リスクの高い方には、転倒時の衝撃を小さくするためのマットやカーペットを床に敷いている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者始め職員一人ひとりが地域密着型サービスであるというその意義を心に刻み、事業所が目指すべき信条と理念を共有できるように、常に心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の地域交流拠点ほほ笑みガーデンは、地域のまちづくり協議会の構成員でもあり、ご利用者が地域の行事にも参加できるようにつながりをもつと共に、近隣への散歩などの際に挨拶などして地域の方との交流を継続している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、大牟田市によって開催される、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練の事務局として、まちづくり協議会の実行委員の皆さんと認知症の人の理解と安心・安全のまちづくりの啓発活動を行っており、本年度はミニフォーラムも開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、開催している運営推進会議において、利用者のサービスの状況及び運営の状況等ついて、報告を行い意見を求め、そのご意見等について真摯に受け止め修正すべきは修正し、また励ましのご意見により職員のモチベーションの向上、チームの士気高揚にも繋げるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大牟田市の福祉課の職員とつながりを持ち、必要に応じ運営に関する相談や連携を図ると共に、サービスの向上や地域の健康推進事業等にも取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人において設置されている身体拘束等適正化委員会において、3ヶ月に1回会議を行い、職員に身体拘束についての研修を開催し、学びを深めると共に、その意識向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の芽チェックリスト」の記入を毎月実施しており、月に一回真剣に考える機会をつくると共に、アンガーマネジメント等虐待の防止のための研修を実施している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や権利擁護についての研修の機会を提供し、学ぶ機会を作るようにしている。必要に応じ、ご家族に制度について紹介している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容や重要事項説明について丁寧に説明を行いご理解の上契約を行うことはもとより、契約後も、個々の条項に関連する事象が発生すると予測される際にも、ご理解、ご納得頂けるよう説明するように心がけている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見を反映させる仕組みとしては、あんしん介護相談員を受け入れ、実施していただいている。ご家族様とは、お会いできる機会に、ご意見ご要望をお聞きするように心がけている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のリーダーミーティング及び合同ミーティングの際に、職員の意見や提案を聞く機会を設けると共に、発言しやすい雰囲気づくりに努力している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者やユニットリーダーは、リーダー研修等に参加し、スキルの向上ややりがいを高める機会を設けている。処遇改善加算を取り入れ、待遇の向上及び職場環境の改善に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたって、性別や年齢に関しては、幅広く採用している。「自分自身が幸せではないと良い介護は出来ない」という信念に基づき、職員一人ひとりの自己実現を目指し、共に成長できるように心がけている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者は、大牟田市が主催する「人権のまちづくり啓発リーダー養成講座」を修了し、社内研修で伝えるようにしている。新入社員研修では、人権教育の一環として、映画「コスモスの咲く日」の視聴の機会をつくっている。毎月のミーティングの機会には、「自分がして欲しくないことはしない。」という考えを繰り返し伝えている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を開催している。また、管理者やリーダーは、自己啓発やリーダー向けの研修に参加し、学びを深めている。経験に応じ、外部研修も勧めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大牟田市介護サービス事業者協議会に事業所会員として入会しており、リーダーは認知症ライフサポート研究会に個人会員として入会し、認知症介護実践塾に参加し、サービスの向上に繋げるようにしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用当初の不安を少しでも軽減できるように、笑顔で、誠心誠意、丁寧に対応することが重要であると考えている。初期支援の際は、センター方式D-4焦点情報に記入し、少しでも早く馴染まれるように努力している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	止むを得ずグループホームに入居させることを、決断される場合など、家族は、負い目を感じたり、複雑な思いを持っていらっしゃるが多いため、ご家族の思いもしっかりと受け止めるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際に、在宅サービスの利用が適切であるか、施設入所が本当に必要であるか、必要と思われた場合、どのような施設がその方にとって適切であるかなどについて担当のケアマネジャーや地域包括支援センター、その他関係者と慎重に検討し、助言するようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をし、家事をしたり、趣味や外出を共に楽しみながら、支える側と支えられる側という壁を低くし、人としての関係を深めるように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援が必要な場合や、ご家族が支援した方が良い場合もあることを意識して、ご家族と共に考え支援していくように心がけていると共に、ご家族や職員もご本人に支えられていることも忘れないように心がけるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望により、もともとのかかりつけの医療機関に通院されることを支援しており必要に応じ通院送迎の支援を行っている。通院送迎時等の道すがら、市内各所の思い出の土地の話をして、昔のことを思い出されるなど馴染みの地名を忘れられないように意識してお話するように心がけている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行により、ご利用者同士のコミュニケーションは、かなり難しくなっているが、なるべく食卓やリビングでご利用者同士が居合わせる場面をつくり、必要時は職員が中に入り、互いの関係性を深め、維持できるような配慮を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後にご本人が安心して暮らすことができるようご家族との関係性を維持しながら、その後の暮らしが落ち着かれるまで、相談等の支援を続けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の表出が困難なご利用者に関しては、カンファレンスの場において、携わるスタッフ一人ひとりの感性によりあらゆる視点から意見を出し合い、パーソンセンタードケアの理念を大切に推察し、ケアマネジメントに活かすようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、これまでの人生や暮らしぶりなどを、ご家族にセンター方式のシートにご記入頂きこれまでの暮らしについて把握するように心がけている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方について観察し、毎日バイタルサインチェックを行い異常の早期発見に努めると共に、個々の能力の把握にこころがけ、支援計画に活かせるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	少なくとも月に一回以上、ミーティングの機会をつくり、本人及びご家族のご意見も反映できるように心がけている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉がある時には出来るだけ逐語録で記録するように心がけている。日常生活の身体に関わる変化及び認知症等による精神面や行動の変化などから情報分析を行い計画の見直しを行うようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急病による医療機関受診等の対応はもとより、その日の心身の状況や天候、職員の対応の状況等により、例えば、急にドライブに行ったり、お花を見に行くなど、即時的に実施するなどの支援を行うように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ地域の行事へ参加できるように支援している。併設の地域交流拠点ほほ笑みガーデンにて、毎週水曜日に開催されているほほ笑みハーモニーには、数名の方をお連れしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけの医療機関に通院を希望される方は継続されるように支援し、かかりつけ医を探しておられる場合などにおいては、協力医やその他その方のニーズに合ったところを紹介するようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは、情報を共有し連携を図り、協働している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は、適切に治療できられるように必要な情報提供を行うと共に、可能な限り早期に退院できるように医療機関と情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合や終末期には、様々な条件が整えば可能な限り看取りが行えるように対応することとしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急病時の応急手当について社内研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消火避難訓練は年に2回実施している。火災以外の災害の対応に関しても、マニュアルを作成している。水害等の避難訓練も実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重、誇りやプライバシーの確保について十分配慮を行うように心がけるように努力している。人権の研修を行い、一歩一歩意識は高まっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを関係性を深めながら、可能な限り尋ねるように心がけている。意思の表出が困難な方については、ご家族のご意見を尋ねたり、チームで検討するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員体制の関係で実施できないこともあるが、可能な限りお一人おひとりのペースに合わせて対応できるように努力している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などは、身だしなみの助言やお手伝いをして、服選びなども手伝うようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は、お一人おひとりのしたいことやできられることを探し、可能な限り調理の手伝いや、盛り付け、配膳等に参加していたが、認知症の進行と感染症の発生以来、あまり実施できていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの習慣、栄養状態、体重の増減、排泄状況、気候による気温や活動状況等を意識し、食事や水分の摂取量の調整を図っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操や食後の口腔ケアを、実施していただいております。支援が必要な方は、声掛けや、介助し実施している。訪問歯科も利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を継続できるように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に水分を十分に摂っていただき、排泄状況の記録を行い、便秘が続くときは緩下剤や座薬等でコントロールしている。食物繊維（サンファイバー）や乳酸菌等により、腸内環境の改善も取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴に関して、ご本人の希望の回数や時間帯について、ご希望通りの対応はできていない。入浴時は、可能な限り満足いただけるように心がけている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ベッドで休憩される方は、そのようにしていただき、夜間不穏な場合は、話を聞いたり、不穏が落ち着かれるのを待って休んでいただくようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の目的や副作用については十分把握できていないが、日頃より学習できるように心がけている。病状変化時の臨時薬（解熱剤、抗生剤等）の与薬に関しては、特に用法・用量に十分注意し服薬支援を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの役割や楽しみごとを探し、家事の役割やレクリエーション、創作活動を実施している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院の支援や近隣への散歩等、可能な限り支援している。ご家族様の協力により、自宅での食事や外食など楽しまれている。クリスマス時期には、夜間、イルミネーションがきれいなところにお連れして大変喜ばれた。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持に関しては、管理できるご利用者には、ご自身で管理して頂き、買物など頼まれた際には、対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときはかけていただくように対応している。年賀状を、本人宛に出している。 本人宛の手紙は、お渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住環境として施設ではなく、普通の家を意識したしつらえになるように心がけている。七夕やクリスマス、お正月など、季節を感じさせる飾り付けも心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6名のご利用者であり、ソファでくつろがれる時間と食卓で歓談される時間があり、居室で過ごされることもある。心身の状況やご利用者同士の関係性も考慮し、その都度イスやソファの位置も変更している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、自宅で愛用されていた家具や調度品を持ち込んでいただき、家族の写真を飾るなど、ご自分の部屋であることを印象付けるように心がけている。ゆっくり自室で過ごされるようにソファなど持ち込まれるように提案している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかられない方がいらっしやるので、ドアに「トイレ」の表示をするなどしている。居室の戸に名前を表示し、ご自分の部屋がわかるようにしている。必要と思われるところに手すりを設置し、転倒リスクの高い方には、転倒時の衝撃を小さくするためのマットやカーペットを床に敷いている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		